新年のごあいさつ

紙パルプ技術協会 理事長 伊 東 祐 正

New Year's Speech

Suketada Ito

President; J. TAPPI

皆様、明けましておめでとうございます。

原材料の不足、慢性的構造不況、円高のなかで、不安と期待をもって迎えた紙パ産業の1980年代は、ここに早くも3年目を迎えることになりました。この間、原材料の量的制約は、少なくとも短期的には解消され、円相場は、一転して専門家の予想を大きく裏切り、逆にコストプッシュの主因となりました。戦後最大の不況だけは、一貫してわれわれを苦しめています。年頭に当って、まずこの点に触れてみましょう。

従来、紙パ産業不況対策のより所となっていた「特定不況産業安定臨時措置法」（構造不況法）が、本年6月末に期限切れになるため、過剰生産設備の廃棄など強力な調整措置が目下足踏み状態となっています。これに続く新法が、

「基礎素材産業対策特別委員会」で検討され、紙パ、合繊、アルミ、合金鉄、塩ビ、石油化学、化学肥料、平電炉、8業種の活性化がはかられています。基礎素材産業は、それぞれ本質的、致命的なぜい弱性を持ち、低収益にあえぐばかりか、なかには将来その存立さえも危ぶまれている業種もあります。しかし、これらの産業は日本全体の産業構成のなかで、きわめて重要な役割を占めています。世界の先進国のなかで、わが国のファンダメンタルズが優れている基因の一つとして、インフレ率が常に低いことが挙げられますが、これは、基礎素材産業が、製品の低価格に歯を食いしばって耐えているお蔭である、とも言えるでしょう。生産人としては、技術開発をさらに推進して、機能的品質の向上とコストダウンを徹底的に追求し、原料調達、生産、販売面では無駄を省いて共同化を推進する

伊 東 理 事 長

などの努力を尽くさなければなりません。同時に新しい立法に基づく政策、税制、資金上の支援により適正な利益をあげ、これを技術開発や、生産設備の近代化などの前向きの投資に当て、国際競争力を強化し日本経済全体をさらに活発にできるよう切に望むものであります。

次に、昨年はじめて現れた傾向として、紙製品の輸入がわずかながら輸出を上廻ったことが注目されます。北米からのクラフトライナー、新聞、北欧からのアート、韓国からのジュートライナーが目立ち、なかでもクラフトライナーは対前年50%の伸びでした。わが国は、開放経済体制を前提としており、諸外国からの圧力も厳しさを増す一方で、今年もある程度の増加は避けられないでしょう。ある国の、さる高官が日本の非関税障壁を攻撃した際、日本語そのものを、その一つに数え上げたそうですが、そ

れを聞いて何たる思い上りと憤激していたのでは、この国際化時代に対処はできません。飽くまで冷静に、全体のバランスを見ながら最適点を見出さなくてはなりません。

今年は、昨年後半に発足した製紙技術研究組合がいよいよ本格的な研究活動に入る年でもあります。貴重な国費の援助を、官学民の総力を結集して実らせなければなりません。いつの日か、日本名を冠したパルプ化法、抄紙法が、一般名詞として世界の業界に通用することを思うと、お正月らしい、ほのぼのとした気分になるではありませんか。われわれの日常の仕事のなかでも、次々と開発されて来る新材料や、新技術を取り入れた発想が欲しいものです。

昨年の年次大会は普段なかなか訪れる機会のない米子で行われ、幹事会社のご厚意と関係者の皆様のご努力で非常に盛会でしたが、今年もまた趣を変えて神崎製紙にホストをお引受け頂き、海を渡った徳島で開催されることになりました。年次大会の運営振りは、満点に近く、この上は、操業経験的な発表ももちろん大いに結構ですが、もう少し独創的研究が加わりますと、内容的にも世界の注目を集めるようになることと、ひそかに期待しております。この他、研究発表会、計装技術発表会、印刷適性講演会、環境シンポジウムなど技術交流の場が数々用意されておりますので、今年も大いにご活用頂きたいと思います。

国際的には、かねてから準備を続けて参りました「木材およびパルピング化学国際シンポジウム (ISWPC)」が、5月下旬筑波研究学園都市で開かれることになっております。海外からの講演者リストを見ますと、文献を通じてお馴

染みの深い、各分野の第一人者がずらりと並んでいます。今から、その日が楽しみです。

11月には、前回は、東京で行われました日加技術交流会がエネルギーを中心にオタワで開催されます。日本からの参加予定の方々は、準備に余念のないことと思います。

1983年は、また、国際コミュニケーション年＝WCYで、わが国でもセンターのコンピューターと家庭のテレビを電話回線で結ぶキャプテンシステムが、いよいよ実用化されます。その外、CATV(ケーブルテレビ)、VRS(ビデオレスポンスシステム)、等々が、目白押しに出番をうかがい、まさに、「ニューメディア元年」の到来を思わせます。現代の新技術の恐ろしさは、それが発明者の考えもよらなかった他の人間生活の分野や、思想、道德観にまで、いつの間にか決定的な変更をもたらすことで、情報媒体である紙の生産にたずさわるわれわれとしては、特に目を離すことができません。

技術革新の波に洗われる一方では、国際情勢、経済環境が時々刻々激動し、われわれのささやかな努力の集積が、一瞬にしてくつがえされてしまうことさえある時、私は次の3つのエースを常に忘れず、この年を乗り切りたいと思っています。

“A”lert

“A”gile

“A”dept

年の始めに、所感の一端を申し上げて、ごあいさついたします。

今年も、皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げ、合わせて紙パルプ技術協会の諸行事には、変らぬ御支援をお願い申し上げます。